

いもち病、紋枯病が発生しています。 7月下旬に防除を行いましょう。

現在、紋枯病の発生は、例年になく多くなっています。今後も、発生に好適な気象が続くと予想されており、多発生する恐れがあります。

また、葉いもちの発生も多く、穂いもちの発生が心配されます。

紋枯病と葉いもちの発生している圃場では、出穂前に必ず防除しましょう。

1 防除の必要な圃場

紋枯病

- 穂ばらみ期の発病株率が中生では20%以上の圃場
- 上記の基準に達していなくても倒伏が予想される圃場

いもち病

- 上位葉に病斑がみられる圃場



(上: 紋枯病、下: 穂いもち)

2 防除時期

1回目：穂ばらみ期～出穂直前

2回目：出穂期～穂揃期

3 主な防除薬剤

※農薬の表示（収穫前日数など）を確認し、正しく使いましょう。

紋枯病

バリダシン粉剤 DL、バリダシン液剤 5、アミスタートレボン SE、サジェスト微粒剤
※稲の下部の病斑に、薬剤が十分に付着するように散布しましょう。

いもち病

ビーム粉剤 DL、ビームエイトゾル、ビームスタークル粉剤 5DL
ビームスタークル微粒剤 F、ラブサイド粉剤 DL、アミスタートレボン SE
トップジンスタークル粉剤 DL、トライ粉剤 DL、トライトレボン粉剤 DL
ブラシン粉剤 DL、ブラシンフロアブル

☆詳しい農薬情報は農薬登録システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllg301.do>)をご覧ください。